PDF Complete
Your complimentary use period has ended. Thank you for using PDF Complete.
Click Here to upgrade to Unlimited Pages and Expanded Features

≪資料≫　　２０１０年１１月１６日

●あなたの人間力を磨く月刊誌『致知』●「人間力メルマガ」

『致知』の人気連載コーナー「致知随想」の中から、特に反響の多かった記事をセレクト。今回は大阪市西成区釜ヶ崎でボランティアケースワーカーとして活動する入佐明美さんの随想です。ぜひ最後までお読みください。

「釜ヶ崎」は私の学校

入佐明美（ボランティアケースワーカー）
『致知』２００９年４月号「致知随想」
※肩書きは『致知』掲載当時のものです

大阪市西成区の「釜ヶ崎」。わずか１平方キロメートルにも満たないこの街には、約２万人もの日雇い労働者が生活しているといわれています。仕事を見つけるには、早い人で夜中の２時頃から西成労働福祉センターに並んで順番待ちをしなければなりません。仕事に行けなかった人は、ドヤ（簡易宿泊所）代が払えず、多くの人が野宿を余儀なくされます。明日の保証のない不安定な生活に心身ともに消耗し、路上で息を引き取る人が毎年３００人にものぼります。

私が、この釜ヶ崎でボランティアでケースワーカー（相談員）の仕事を始めたのが２４歳の時。多くの方々のご支援をいただきながら活動を続け、早いもので、今年で３０年になります。

中学時代、生きる意味がわからずに悩んでいた時、ネパールで医療奉仕をされていた岩村昇先生のことを知りました。地元鹿児島の高校を卒業後、姫路の看護学校に進みました。看護師をしていた時、一時帰国されていた岩村先生にお会いすることができました。

ネパールへの思いを打ち明けたところ、その前に２、３年、釜ヶ崎で働いてみませんかと勧められたのです。

初めて釜ヶ崎を訪れた時は、身がすくみ、足が震えました。でもネパールにはどうしても行きたい。迷いつつ何度も釜ヶ崎に足を運ぶうちに、医療を必要としている人がとても多いことを実感し、ここで働こうと決意しました。

医療従事者として釜ヶ崎で働いていた人はなく、私が初めてだったので、手探りの状態でした。私にできることは、労働者の皆さんと心を通わせるため、挨拶をして回ることだけでした。一人で言葉をかけ続けました。しかし、まと

PDF Complete
Your complimentary use period has ended. Thank you for using PDF Complete.
Click Here to upgrade to Unlimited Pages and Expanded Features

もに相手をしてくれる方はほとんどなく、たまに返ってくるのは次のような言葉ばかりでした。

「ここは女の子がブラブラするところと違うで」
「ケースワーカー？　あんたみたいな小娘にわしらの苦労が分かってたまるか」

本当にやっていけるだろうか。
不安に苛まれながらも一所懸命声をかけ続けていると、少しずつ「頑張りや」と温かい声もかけていただけるようになりました。娘の姿とダブると言って涙を流す方、ご自身の生い立ちを話してくださる方もありました。
多くの方が、ここへたどり着くまでに大変な苦労をされています。目覚ましい経済成長の傍らで第一次産業は衰退し、家を出ざるを得なくなった農家の二男、三男の方。万博など特需に沸いた時には労働力として利用されますが、終われば使い捨てです。

学歴社会の日本では、学歴がないと安定した仕事に就くことができず、日雇い労働に行き着く方も多いのです。そこで重労働を強いられ、賃金をごまかされたり、暴行を受けるなどしてだんだん身体を壊し、心も閉ざしてしまいます。

ある時、２０年来知り合いの労働者に、次のように言われました。
「怒らんと聞いてくれるか。誰にでもニコニコして声をかける姉ちゃんの姿をずっと眺めていて、最初はここ（左手の人差し指で頭を指して）が足らん人かと思っていた。わしみたいな人間でも馬鹿にせえへんやろなと思ったら、近寄りやすかった」と。
私は怒るどころか、悲しくなりました。この人たちの人生の苦労に頭の下がる思いでした。

釜ヶ崎では、病気や怪我をすると仕事に行けなくなりますから致命的です。せっぱ詰まって自分の血を売り、よけいに衰弱して亡くなる人もありました。私は道ばたにうずくまっている人を見つけては、入院や住居の手配、生活保護の手続きをお手伝いします。最近は、労働者同士の口コミで、事務所に来てくださる方がほとんどです。アパートを見つけ、私が保証人として必要経費を立て替えます。役所に何度も足を運んで手続きをしますが、初めの頃は決まるまでは心配でたまりませんでした。
入居が決まり、「道端で死なずに済んだ」と安心しておられる皆さんの姿に、

Your complimentary use period has ended. Thank you for using PDF Complete.
Click Here to upgrade to Unlimited Pages and Expanded Features

大きな励ましをいただいています。部屋を探すに当たって、私は入ってもらう方に丁寧に希望を聞いていきます。３畳か４畳半か、１階かそれとも２階か。最初は雨露さえしのげればいいとおっしゃっていた 方も、次第に「腰が痛いから１階にして」などと本音を明かしてくれます。

これまで選択肢のない人生を歩んでこられた方に、私は選ぶことの喜びを少しでも味わっていただきたいのです。そのためには、相手の方の言うことの表面だけ聞くのではなく、生きてこられた人生に耳を傾ける姿勢が必要だと実感しています。

しかし、私がいくら頑張っても、病気の人、困っている人は後を絶たず、自分は何をやっているのだろう、と思い悩んだ時期もありました。

そんな私に、ある労働者の方がこんな言葉をかけてくださいました。

「姉ちゃん、あんまり大きなことを考えんとき。姉ちゃんは街を歩きながら『おじちゃん、こんにちは』と声をかけてくれるだけでええんや。それがわしらの励みになるんや」

痛みを乗り越えて生きてこられた皆さんの優しさが、これまでどれほど私の心を支えてくれたことでしょう。そしてたくさんの尊い出会いをいただき、今日まで続けることができました。

私にとってここは「学校」です。３０回生となった今年も、労働者の皆さんに寄り添い、一人ひとりの人生にしっかりと耳を傾けること。

そのことに心を込めて取り組んでいきたいと思います。